

他の国は組織の関係から開催を希望されてもできないとのことで、結局は香港がパリかということになつた。

無断転載禁止

香港の代表は充分に開催し得ると言明したが日本としては、台湾と中国、北鮮と韓国の問題があり、香港で開催しても果して中国が参加するかどうか、殊に今回中国不参加の一つの原因として香港の台湾系中国人出席の問題も考えられるし、また、アジアで引き続き開催することよりもアジア、ヨーロッパ、交渉する方が交流のため適当でないかということから「パリ」開催についてフランス代表に強く申入れた。

我々は外国人はすべて英語を理解するものと考えがちであるが、この考え方があまりにも外国を知らない結果で今回出席した各国代表で英語の解るのはほんの少しで、大部分は、全く英語を理解しなかつた。むしろフランス語の方がうまく通じる（よくそれがわかつたね）

それで会議をする場合、まず日本語で発言すると英語で通訳し、さらに英語を仏語に訳すということで外国语の場合は逆になる。一言しやべつてそれを全員に徹底するには相当時間がかかる。英語も仏語も日本語も解らないのは、別に通訳から自國語に訳してもらうというやつかいな事になり、遅々として進まないこと牛歩の如くである。気の短かいものには勘にさわって、えいどうでもなれといふこともなりかねない。

然し反面少し位、解るよりも全く解らぬ方が神経を使わなくて良いこともある。

これまで会いましょう。日本の鍼灸師達は張った事はないが、少し位の勉強では発音が違つたために相手に間違つてとられる事も多かった。

また、今回の国際学会が中国の不切つて次回にはパリに行こうではないか。

無論充分に語学が達者であればそれにこした事はないが、少し位の勉強では発音が違つたために相手に間違つてとられる事も多かった。

殊に苦労したのは、特有の専門用語が多いことで、相当準備をしないと間違いが生ずることになる。この点は国際学会につきまとう宿命かも知れないが、鍼灸医学が今後国際的に発展することを予想すると語学の必要が痛切に感じられた。

—国際学会と言葉—

—we are happy to have you here.—

—東京以外の国際学会—

東京における三日間の学会がすむと十月二十二日は名古屋、二十三日は大阪、二十八日は神戸、十一月一日は長野と外国代表並に日本代表の講師によつて大講演会が行われると共に、外人の講師の歓迎会やら接待が行われたのであるが、前景気もあつて各地共大入満員の大盛會であり、名古屋、大阪、神戸など東京に劣らない位に参加人員があり、出席した外人もその歓迎ぶりに大喜びで、充分満足して帰国されたものと思われる。

—特筆すべき研究発表—

学会記の本来は研究発表の内容並に特筆すべき研究を詳細に報道するのであるが、この方は幸に倉島先生が担当してくれるらしい（勝手に決めた）ので私は専ら裏窓にした。こゝまで読んでこられた方には甚だ

—東京以外の国際学会—

東京における三日間の学会がすむと十月二十二日は名古屋、二十三日は大阪、二十八日は神戸、十一月一日は長野と外国代表並に日本代表の講師によつて大講演会が行われると共に、外人の講師の歓迎会やら接待が行われたのであるが、前景気もあつて各地共大入満員の大盛會であり、名古屋、大阪、神戸など東京に劣らない位に参加人员があり、出席した外人もその歓迎ぶりに大喜びで、充分満足して帰国されたものと思われる。

—将来的発展—

十五年前にはじめて日本針灸治療学会が、東京において、ほそぼそと開かれた時

—将来の発展—

十五年前にはじめて日本針灸治療学会が、東京において、ほそぼそと開かれた時

—皮内針の普及品—

—皮